

入試問題（小論文）出題のねらい

～専攻科 子ども健康学専攻～

【一般専攻科選抜Ⅰ期】

近年、若年層の薬物乱用が増加している状況があります。厚生労働省が発表した「令和3年のわが国の薬物情勢にかかる統計指標」では、20歳未満の検挙数が2021年に初めて1000人台に達するなど、若年層による大麻の乱用増加が指摘されています。また、違法薬物だけでなく、市販薬の過剰摂取オーバードーズによる健康被害の急増についても、厚労省主催の検討会で「わが国における市販薬乱用の実態と課題」が報告されるなど、若者の薬物使用が大きな問題となっており、これまで以上に学校教育における対策強化の重要性が増しています。そのような状況から、養護教諭の薬物乱用防止の保健教育が重要となることから、どのような知識や技能を持ち、実際にどのような内容や方法を用いて保健教育を行うのか、また期待される効果についてなど、思考し、判断し、表現することを問うことを出題のねらいとしています。

【一般専攻科選抜Ⅱ期】

近年、子どもを取り巻く生活において、ICT教育やSNS活用が浸透している状況があります。導入に先駆け文部科学省は、2015年9月に開催した「デジタル教科書の位置付けに関する検討会議」において、日本小児連絡協議会「子どもとICT～子どもたちの健やかな成長を願って」委員会委員の医学博士山縣然太郎氏により“ICTと子どもの健康問題”についての提言を受け、それらをもとに2018年に「児童生徒の健康に留意してICTを活用するためのガイドブック」を作成しました。ここでは、ICT活用による児童生徒の健康面への影響等への配慮とそれについての対策が盛り込まれました。さらに、コロナ禍を経て、子どものメディア接触が増して来ており、学校教育における養護教諭の保健教育がこれまで以上に重要となっています。そこで、メディア社会がもたらす子どもの健康問題に対する理解（知識）と、そこから

実際にどのような保健教育（技能）が求められているのかについて思考し、判断し、表現することを問うことを出題のねらいとしています。

【一般専攻科選抜Ⅲ期】

子どもの心と身体の健康を支え、育む養護教諭は、子どもたちのSOSを早期に発見し、問題の未然防止、また事後においては、いち早く問題に対応する専門性が求められています。具体的には、子どものSOSの内容を受け止めつつ、心身の健全な成長・発達についての基礎的な知識、児童・生徒の発達段階のサポートに必要な論理的思考力および表現力、判断力、さらには他者と協力しながら課題解決に取り組んでいく協働性や倫理性などの力を備えた養護教諭の専門性です。それらをいかに理解し、どのように活用することができるかを出題のねらいとしています。